

農 project

ばーそん / 若手ユニークに ⑤



ふだんは都市部で会社員生活をし、農繁期はドローンを操縦して農家の代わりに農薬散布を担う。「自然の中で体を動かすわくわく感、機械を操る楽しさがある」という。生まれ育った奈良県では親戚の田植えを手伝った程度。今は大阪市内に住み、同市内の化粧品製造会社で働く。約3年前、農業に関心のあ

ドローンによる農業散布に取り組む三田さん（滋賀県甲賀市で）

「ニンジャワークステクノロジーズ」ドローンパイロット
三田 将平さん 35
滋賀県東近江市

兼業 散布をサポート

その勤め先の社長から、兼業先として知り合いの会社を紹介された。ドローンを使って農業の散布をする「ニンジャワークステクノロジーズ」（滋賀県東近江市）の登録パイロットになった。

「大阪では窓のない部屋や無菌室など室内での仕事を中心に、開放感がほしかった。少しでも農家の助けになればとの思いもあった」と話す。

滋賀県甲賀市の閉校舎を利用した同社のドローンスクールで研修を受講。滋賀のほか福井、岐阜、茨城県などにも赴く。思い出深いのが、2年

目に経験した愛知県豊田市の山間地にある田での散布だ。

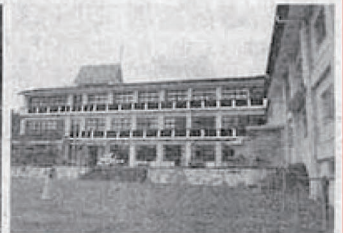
「周囲に家や木々、獣害対策の電気柵がたくさんあった。神経を使ったが、乗り越えて一気に技術力が上がった」

夏場は週2、3回はドローンを操る。「高齢化や人手不足に悩む農業現場を、自分の技術でサポートできる。農家の方から直接『ありがと』とお礼を言われるのもうれしい」。今後も会社員との二刀

流を続ける予定だ。

ニンジャワークステクノロジーズは、17府県に拠点を置

る



⑤閉校舎を活用した研修施設⑥施設内の廊下にはドローンが並ぶ。左が堀井さん



き、登録パイロットは約250人。多くは30〜40歳代だ。散布面積は2018年2800畝、19年5000畝、20年10000畝、21年25000畝と倍々で増えてきた。

同社業務管理部の堀井智士さん(23)も「都会の人たちが楽しみながら、農村を支える。新しいライフスタイルを定着させ、日本の農業の維持に貢献したい」と意気込む。

(地方部 北島夏記)

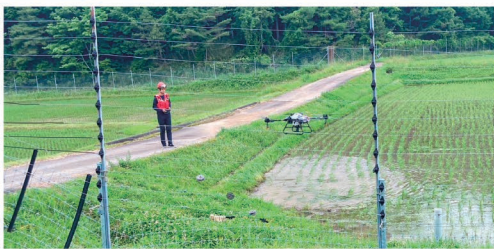
読売新聞大阪本社は農と食に関わる人々を応援します

新たな尹園の土筆効の開発 昔本験を当当てこ来訪して

うし土の

京よ生価時

2023年6月13日(火)の読売新聞の農業を特集する連載「農ぱーそん」プロジェクトに弊社が紹介されました。ドローンパイロットとして三田将平さんが紹介され、パイロットになったきっかけ、やりがいといったインタビューを受けました。これからもニンジャワークスは兼業しながら散布を行なってくださる皆様に応援します！お気軽にニンジャワークスまでお問い合わせください！



NO.1 DRONE NETWORK
NINJA WORKS®

TEL 0749-29-9082
FAX 0749-45-2055
MAIL info@ninjaworks.pro
WEB www.ninjaworks.pro



LINE

WEB